

3-3 情報の入手とコミュニケーション

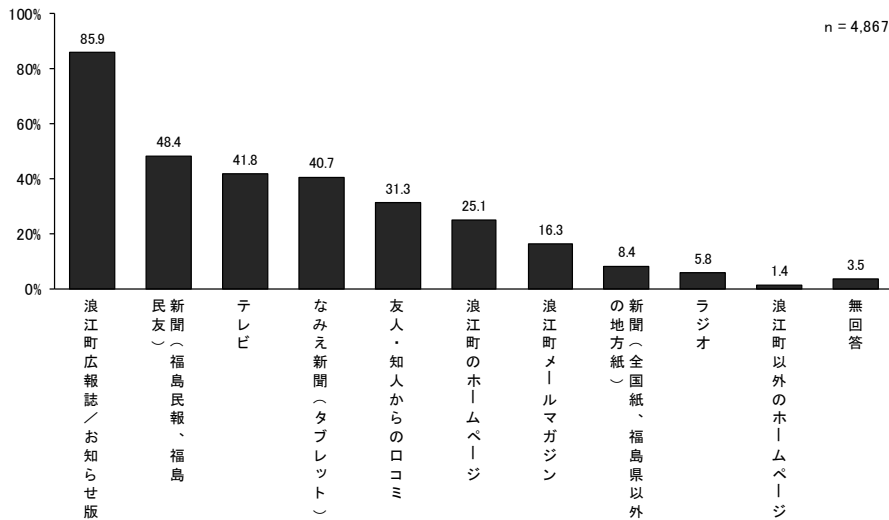
3-3-1 浪江町に関する情報の入手経路

問 10-1 普段、浪江町に関する情報を、どこでお知りになりますか。(〇はいくつでも)

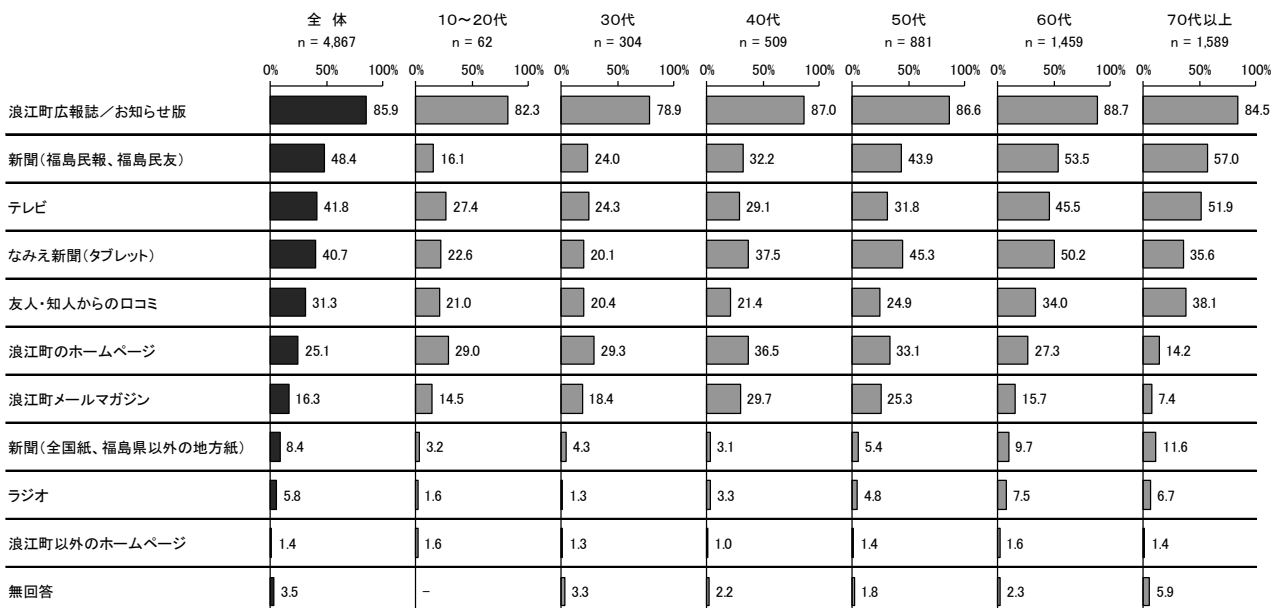
浪江町に関する情報の入手経路については、「浪江町広報誌/お知らせ版」が85.9%と最も高く、次いで「新聞(福島民報、福島民友)」が48.4%、「テレビ」が41.8%となっている。

回答者の年齢別にみても、「浪江町広報誌/お知らせ版」はすべての年齢で最も高くなっている。「新聞(福島民報、福島民友)」は60代(53.5%)、70代以上(57.0%)において過半数を占めている。また、「テレビ」は70代以上(51.9%)、「なみえ新聞(タブレット)」は60代(50.2%)が過半数と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-1 浪江町に関する情報の入手経路>

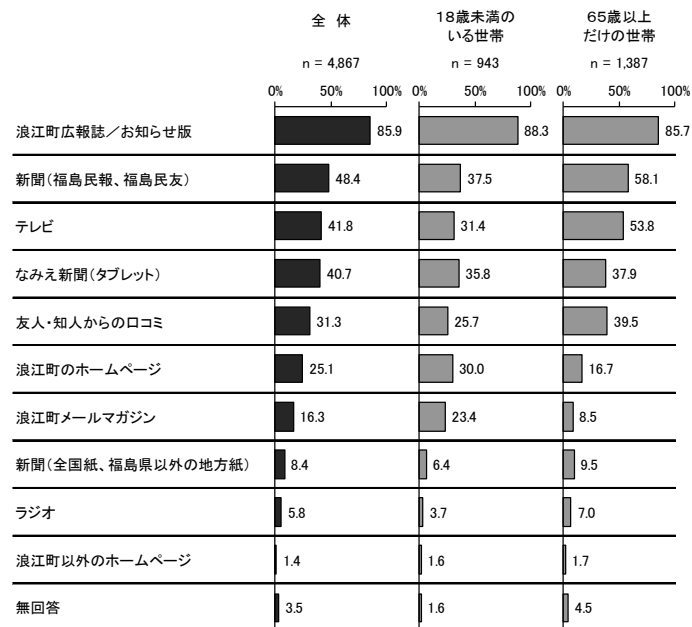


<図表3-3-1-2 浪江町に関する情報の入手経路(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上の世帯では「新聞(福島民報、福島民友)」(58.1%)、「テレビ」(53.8%)、「友人・知人からの口コミ」(39.5%)が全体の割合に比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では、「浪江町のホームページ」(30.0%)、「浪江町メールマガジン」(23.4%)が全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-3-1-3 浪江町に関する情報の入手経路(世帯構成別)>



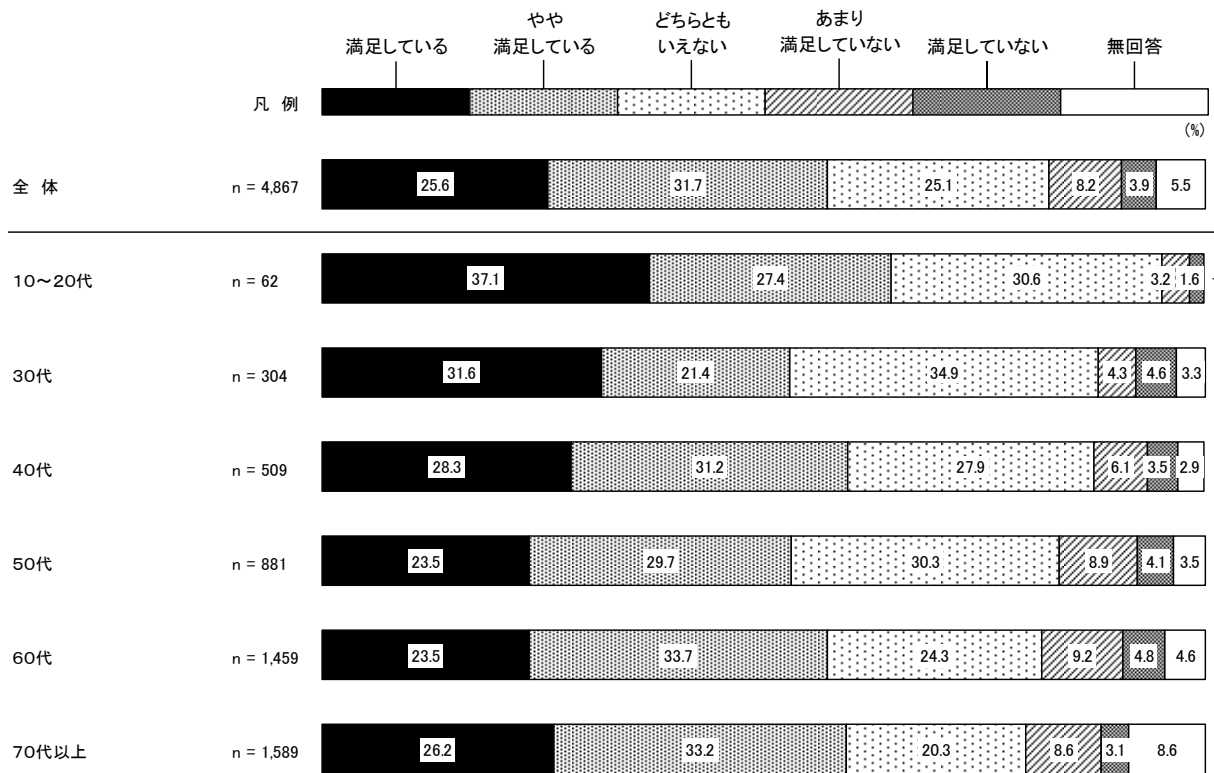
3-3-2 浪江町役場からの情報提供への満足度

問 10-2 浪江町役場からの情報提供にどの程度満足していますか。(〇は1つ)

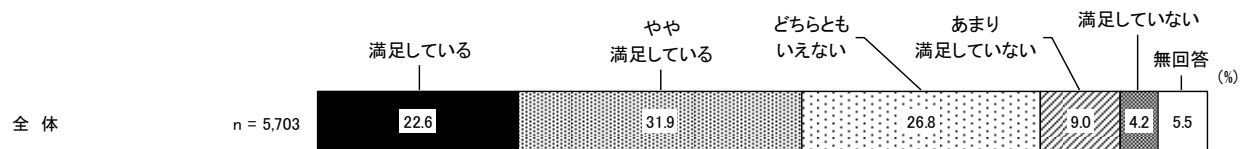
浪江町役場からの情報提供への満足度については、「やや満足している」が31.7%と最も高く、「満足している」(25.6%)と合わせた『満足度』は57.3%と6割弱を占める。

回答者の年齢別にみると、「満足している」は10~20代で37.1%と他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-2-1 浪江町役場からの情報提供への満足度(年齢別)>

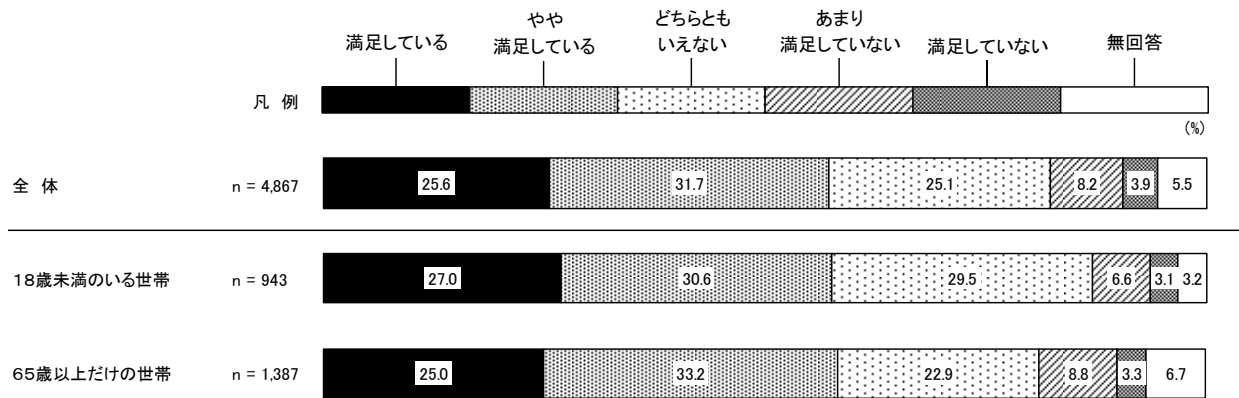


— <<【参考】平成27年度 浪江町住民意向調査結果 >> —



世帯構成別にみると、世帯構成による特徴的な違いはあまり見られない。

<図表3-3-2-2 浪江町役場からの情報提供への満足度（世帯構成別）>



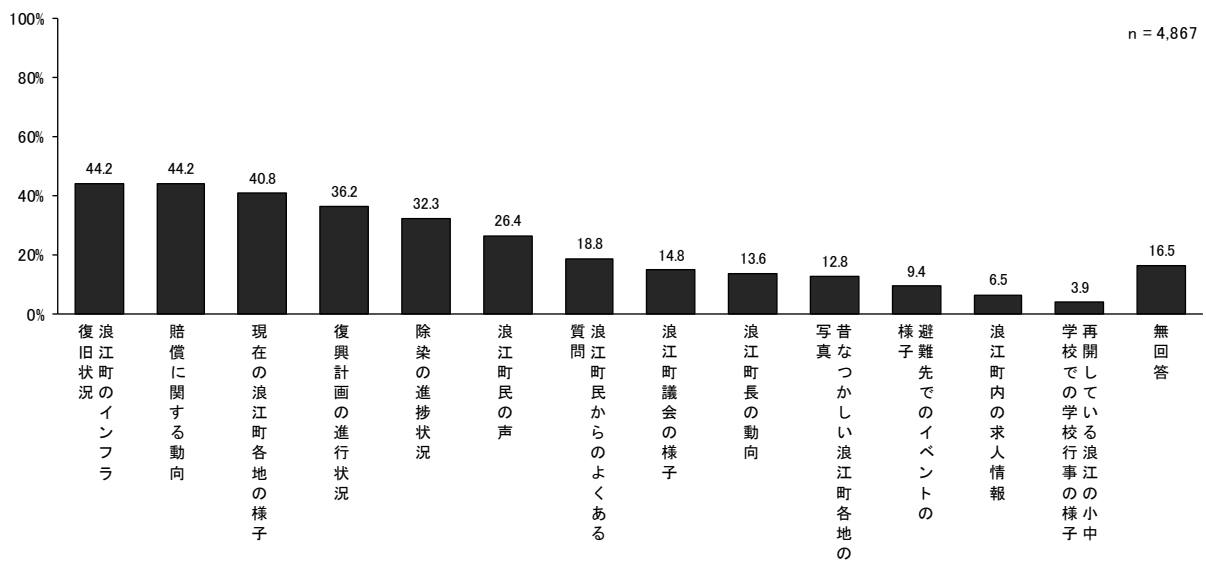
3-3-3 浪江町役場から提供してほしい情報

問 10-3 ホームページ、広報誌、タブレットを介して、浪江町役場から提供してほしい情報はありますか。
(〇はいくつでも)

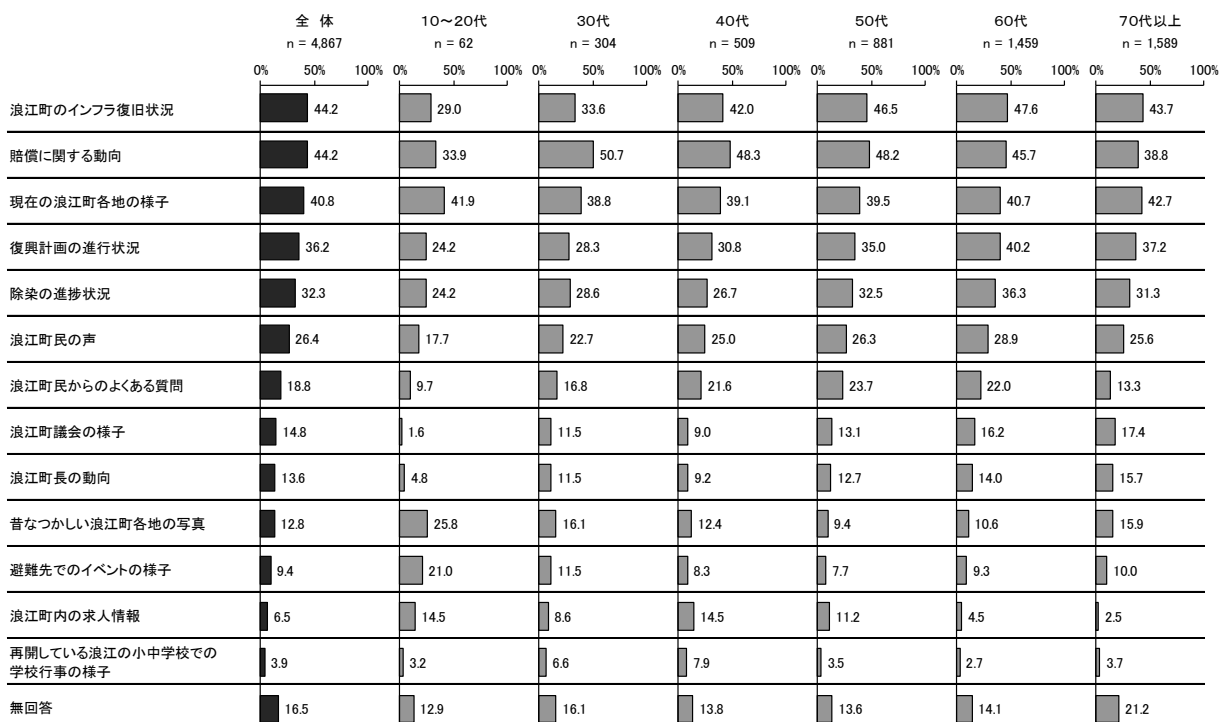
浪江町役場から提供してほしい情報については、「浪江町のインフラ復旧状況」、「賠償に関する動向」が44.2%と最も高く、次いで「現在の浪江町各地の様子」が40.8%、「復興計画の進捗状況」が36.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「賠償に関する動向」は30代で50.7%と5割以上を占めている。

＜図表3-3-3-1 浪江町役場から提供してほしい情報＞

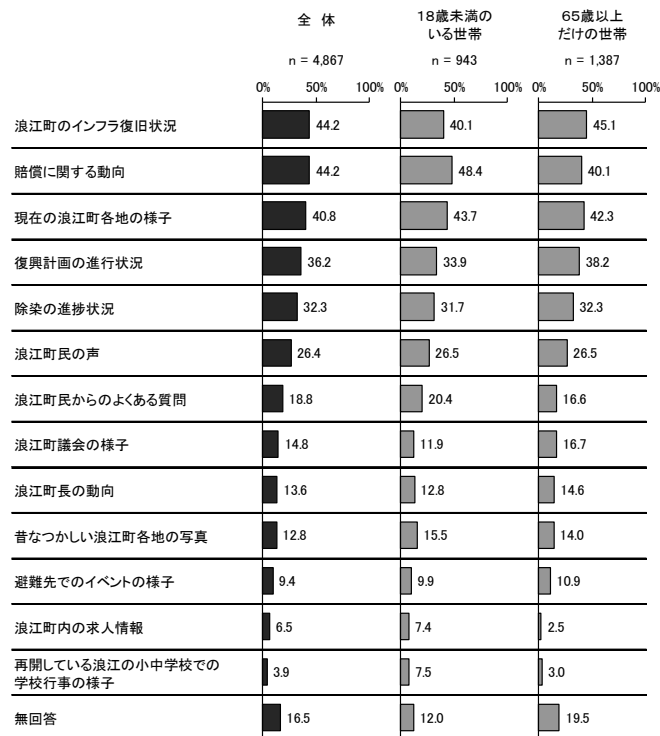


＜図表3-3-3-2 浪江町役場から提供してほしい情報（年齢別）＞



世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯では「賠償に関する動向」が48.4%と全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-3-3-3 浪江町役場から提供してほしい情報（世帯構成別）>



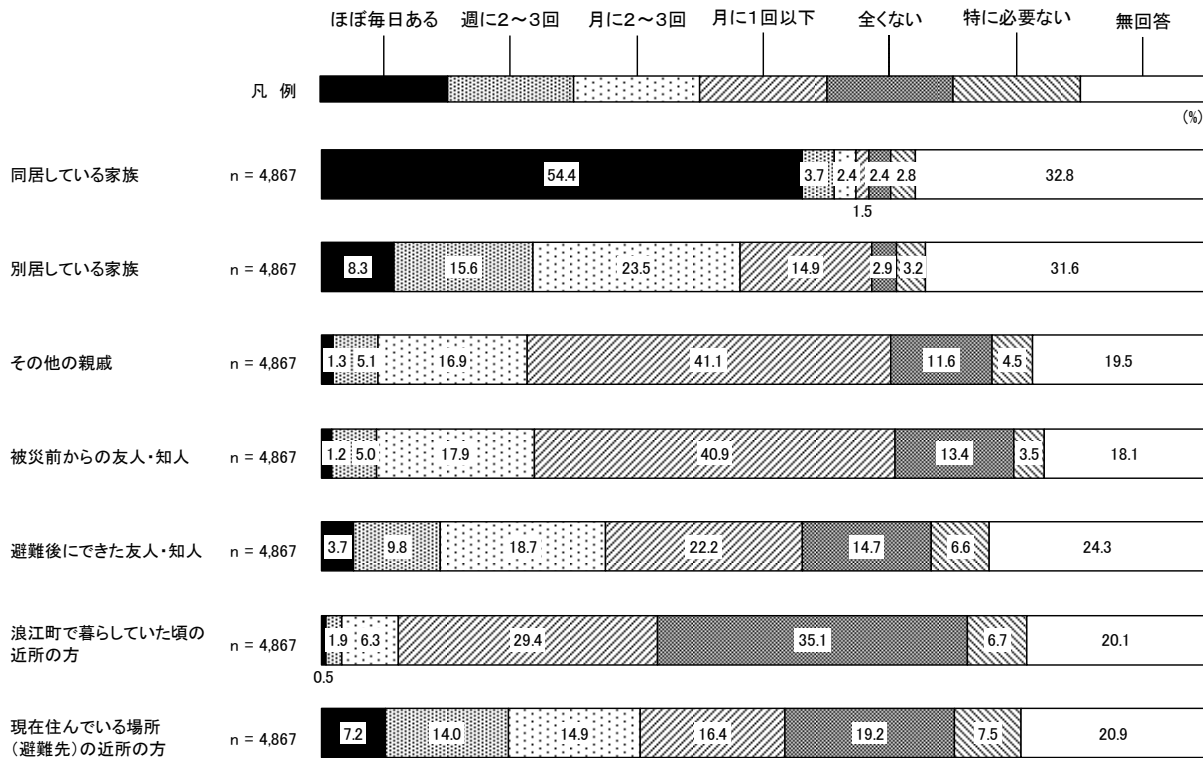
3-3-4 連絡を取り合う頻度

問 10-4 普段、以下にあげた方々（「1」～「7」）と、どの程度、連絡を取っていますか。
（それぞれ〇は1つ）

① 連絡を取り合う頻度

連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で54.4%と過半数となっているが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が21.2%と高くなっている。また、「全くない」については、浪江町で暮らしていた頃の近所の方が35.1%、現在住んでいる場所（避難先）の近所の方が19.2%と他の方に比べ高くなっている。

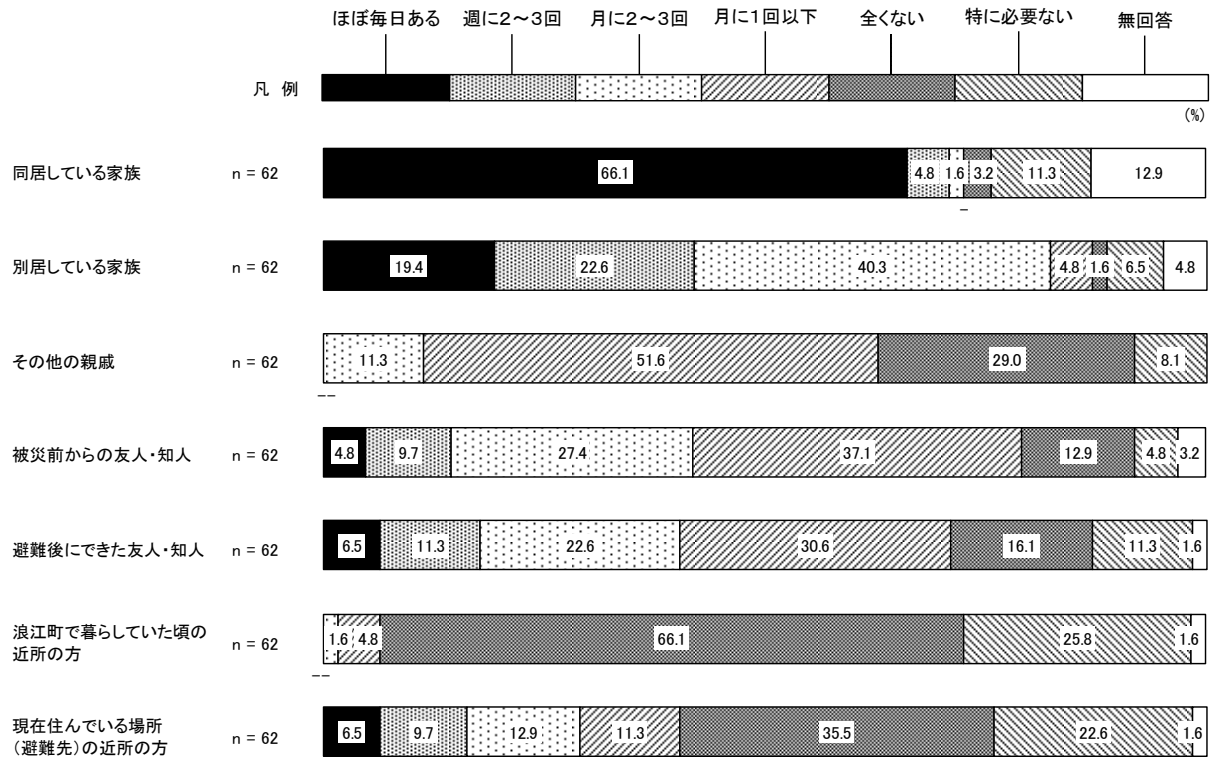
<図表3-3-4-1 連絡を取り合う頻度>



② 連絡を取り合う頻度：回答者の年齢別

10～20代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で66.1%を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が17.8%と高くなっている。

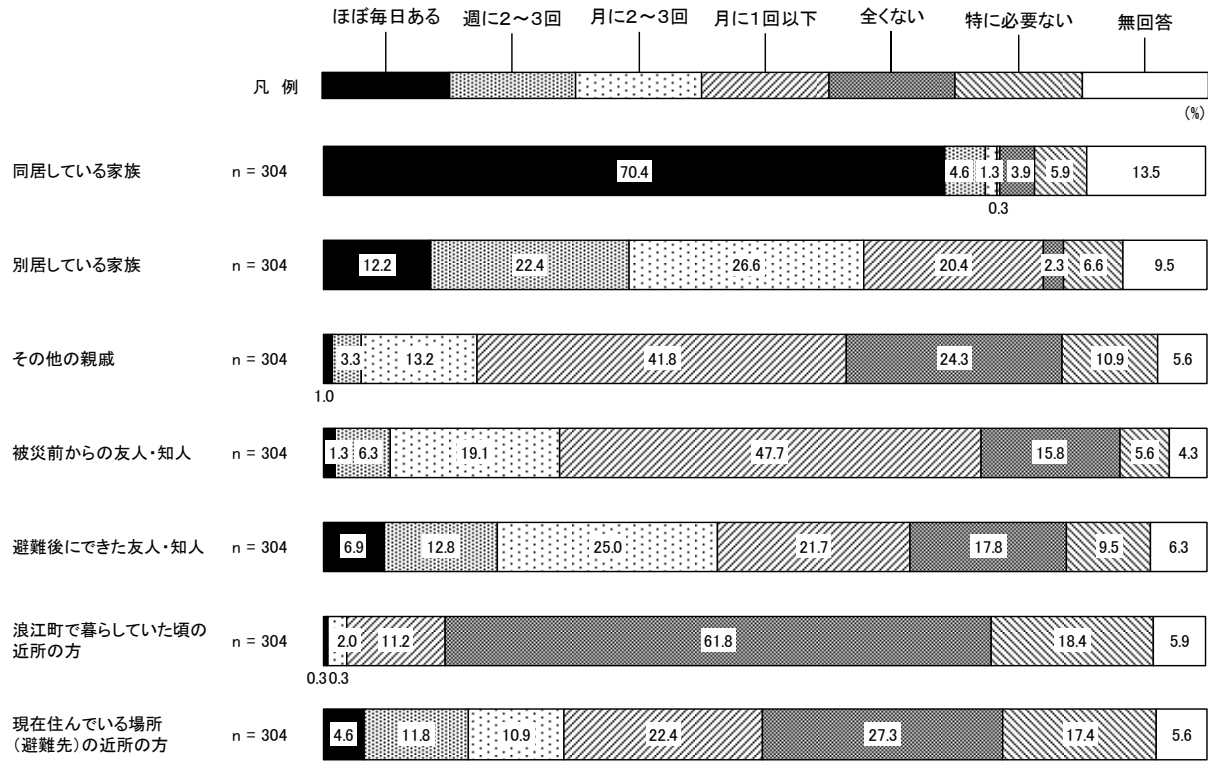
<図表3-3-4-2 連絡を取り合う頻度（10～20代）>



III 調査結果

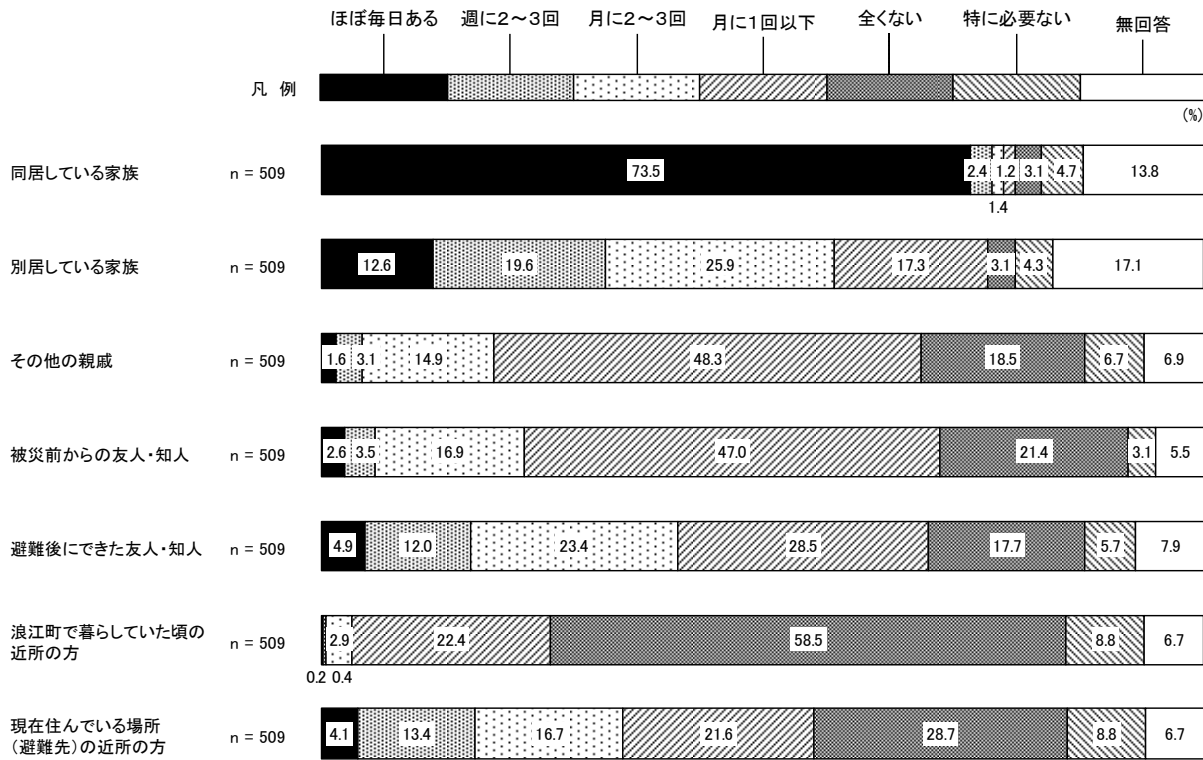
30代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で70.4%と7割以上を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「避難後にできた友人・知人」が19.7%、「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.4%と高くなっている。

<図表3-3-4-3 連絡を取り合う頻度（30代）>



40代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で73.5%と7割以上を占めるが、家族以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が17.5%、「避難後にできた友人・知人」が16.9%と高くなっている。

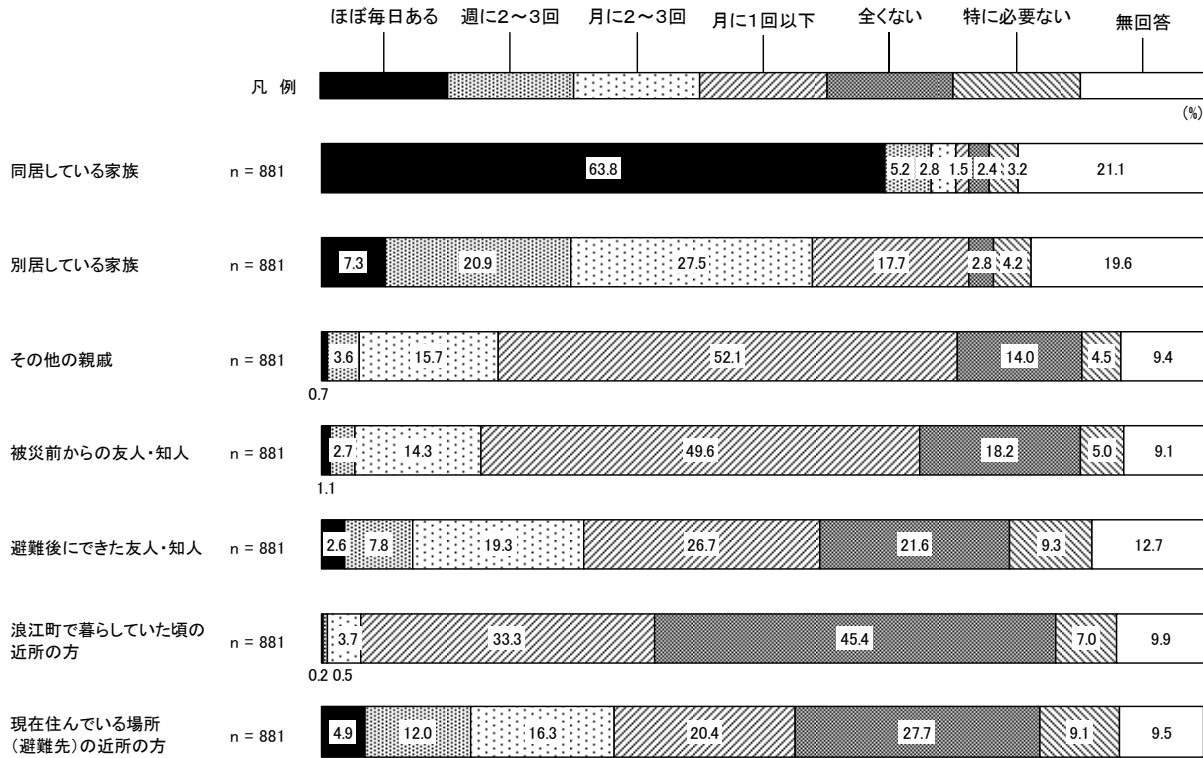
<図表3-3-4-4 連絡を取り合う頻度（40代）>



III 調査結果

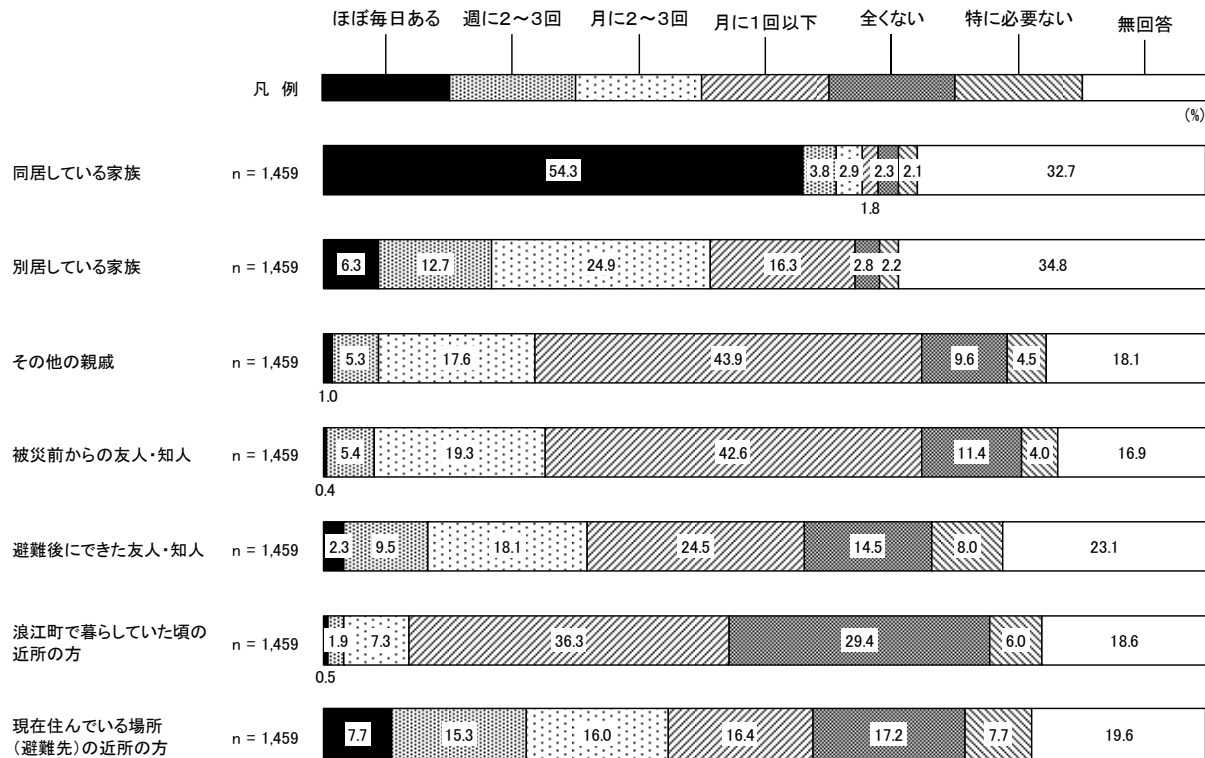
50代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で63.8%と6割以上を占めるが、それ以外の方では1割未満と低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が16.9%、「避難後にできた友人・知人」が10.4%と高くなっている。

<図表3-3-4-5 連絡を取り合う頻度（50代）>



60代の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で54.3%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先）の近所の方」が23.0%、「避難後にできた友人・知人」が11.8%と高くなっている。

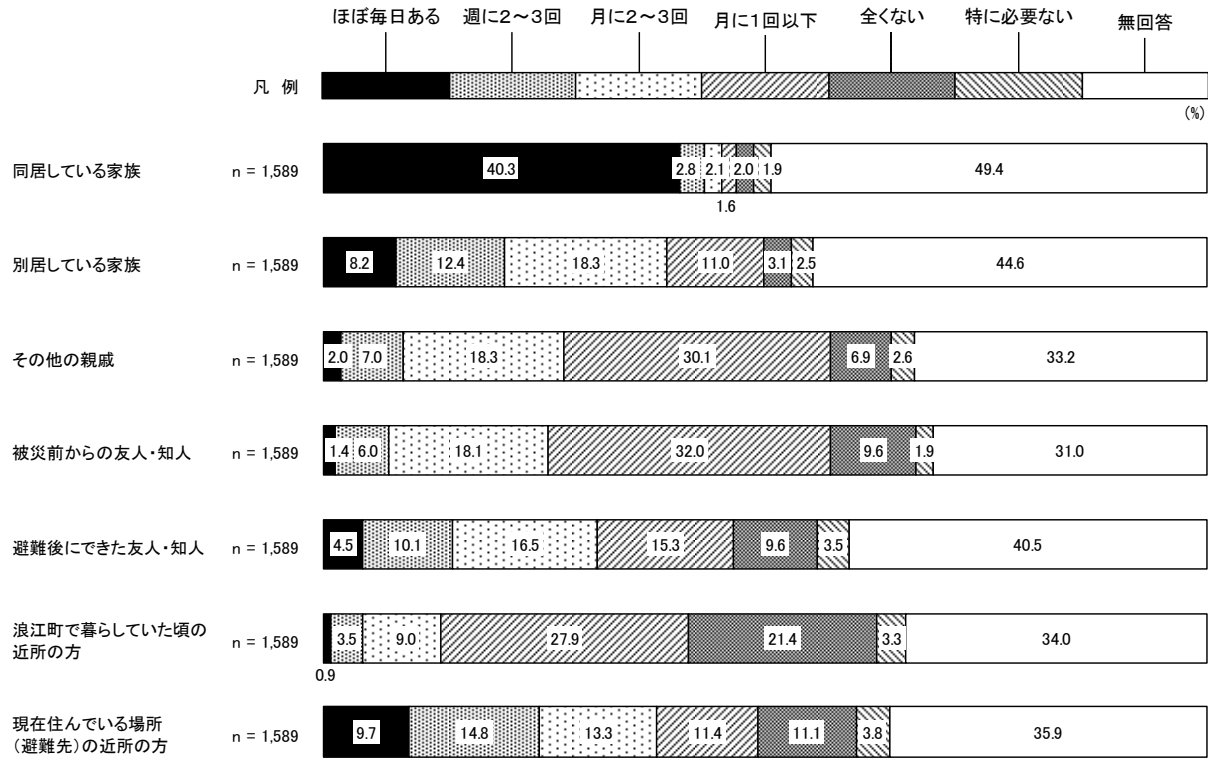
<図表3-3-4-6 連絡を取り合う頻度（60代）>



III 調査結果

70 代以上の回答者の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 40.3%と最も高いが、他の年齢に比べ割合が低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 24.5%、「避難後にできた友人・知人」が 14.6%と高くなっている。

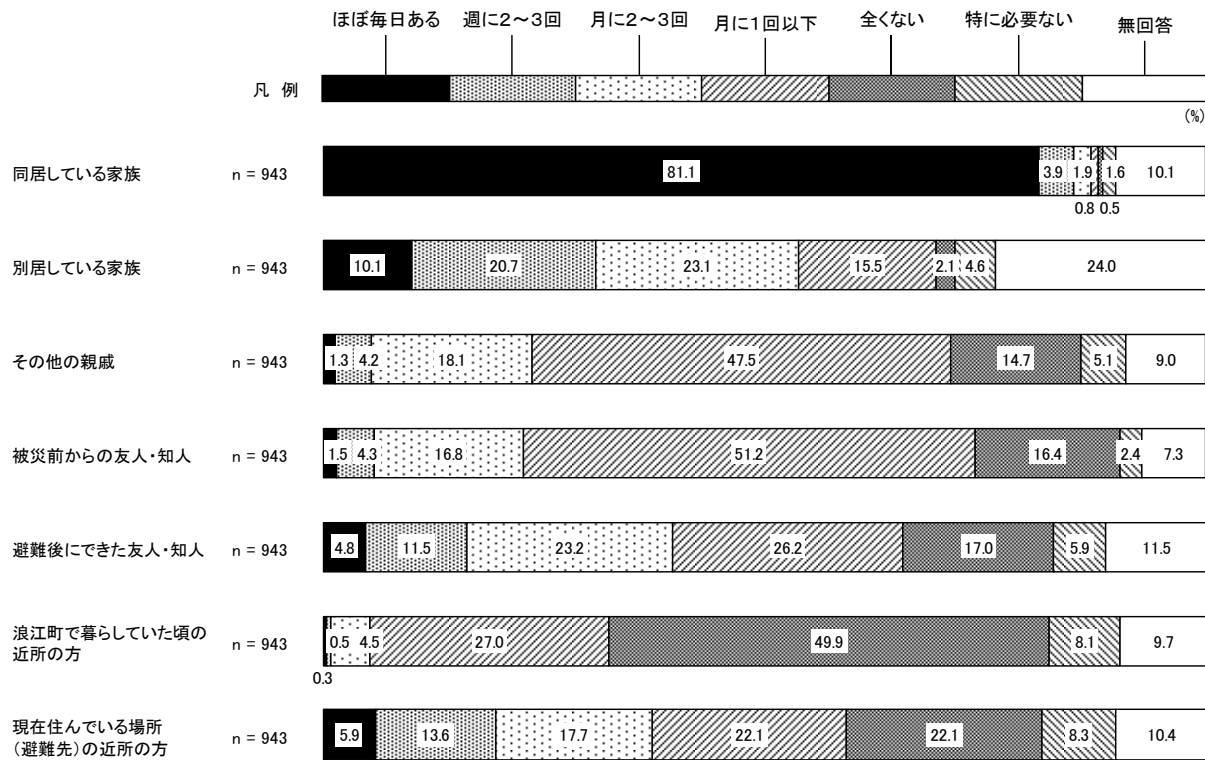
<図表 3-3-4-7 連絡を取り合う頻度（70 代以上）>



③ 連絡を取り合う頻度：世帯構成別

18歳未満のいる世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で81.1%と8割以上を占める。週に1回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に2～3回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が19.5%、「避難後にできた友人・知人」が16.3%と高くなっている。

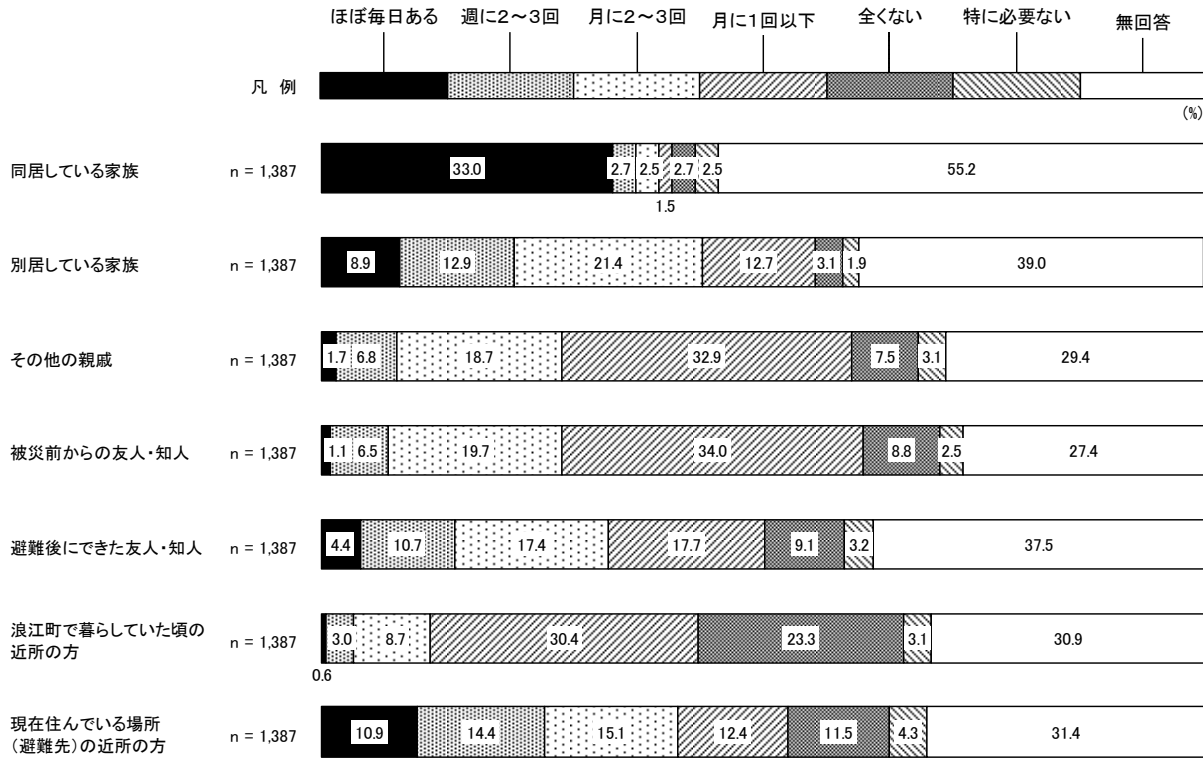
<図表3-3-4-8 連絡を取り合う頻度（18歳未満のいる世帯）>



III 調査結果

65 歳以上だけの世帯の連絡を取り合う頻度については、「ほぼ毎日ある」は同居している家族で 33.0% と 3 割強を占めているが、18 歳未満のいる世帯に比べ低い。週に 1 回以上連絡を取る頻度（「ほぼ毎日ある」、「週に 2～3 回」）は、家族以外では「現在住んでいる場所（避難先の近所の方）」が 25.3%、「避難後にできた友人・知人」が 15.1%と高くなっている。

< 図表 3-3-4-9 連絡を取り合う頻度（65 歳以上だけの世帯） >



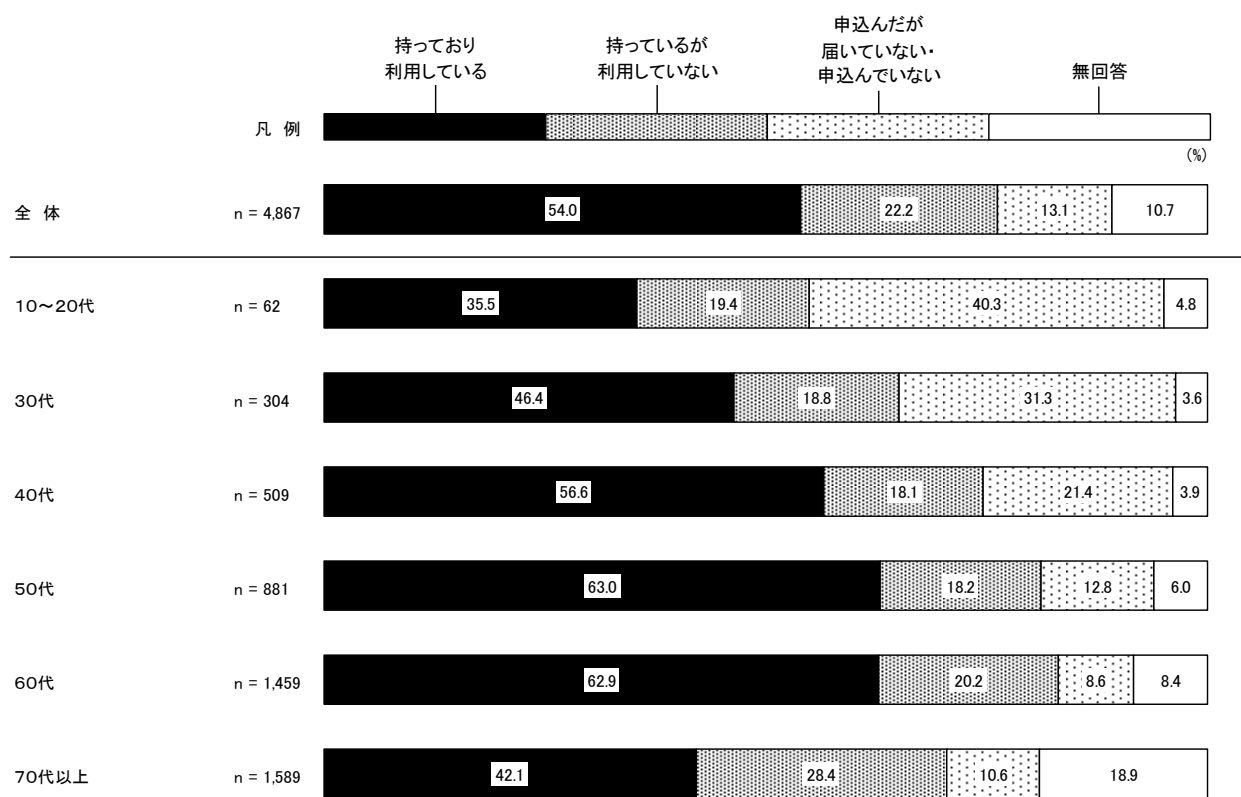
3-3-5 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況

問 10-5 浪江町が貸与している「タブレット」は利用していますか。(〇は1つ)

浪江町が貸与しているタブレットの利用状況については、「持っており利用している」が54.0%と最も高く、次いで「持っているが利用していない」が22.2%、「申込んだが届いていない・申込んでいない」が13.1%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持っており利用している」は50代で63.0%、60代で62.9%と6割以上を占める。一方、「申込んだが届いていない・申込んでいない」は10~20代が40.3%、30代が31.3%と、他の年齢に比べ高くなっている。

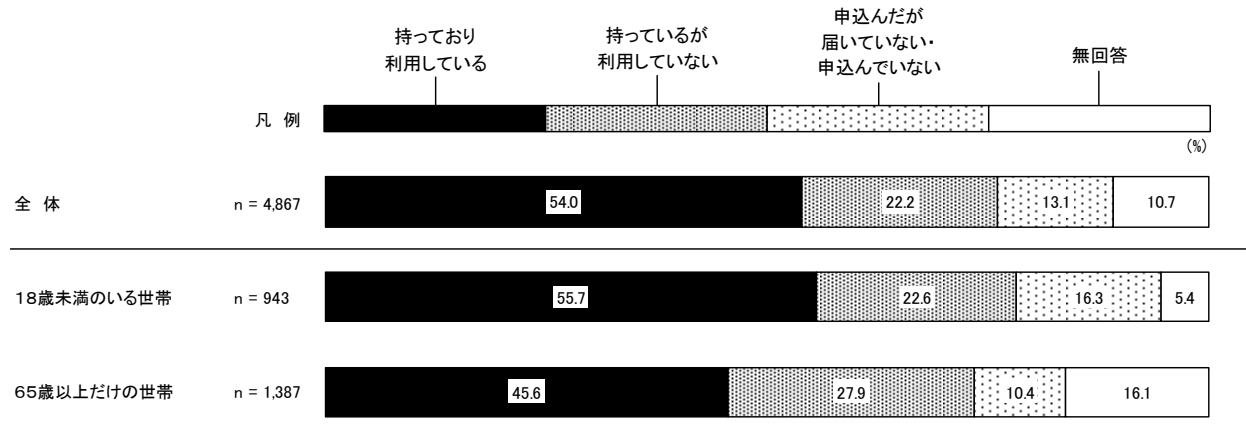
<図表3-3-5-1 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、18歳未満のいる世帯は「持っており利用している」(55.7%)、「申込んだが届いていない・申込んでいない」(16.3%)が、全体の割合に比べ高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では「持っているが利用していない」(27.9%)の割合が高い。

＜図表3-3-5-2 浪江町が貸与しているタブレットの利用状況（世帯構成別）＞



3-3-6 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果

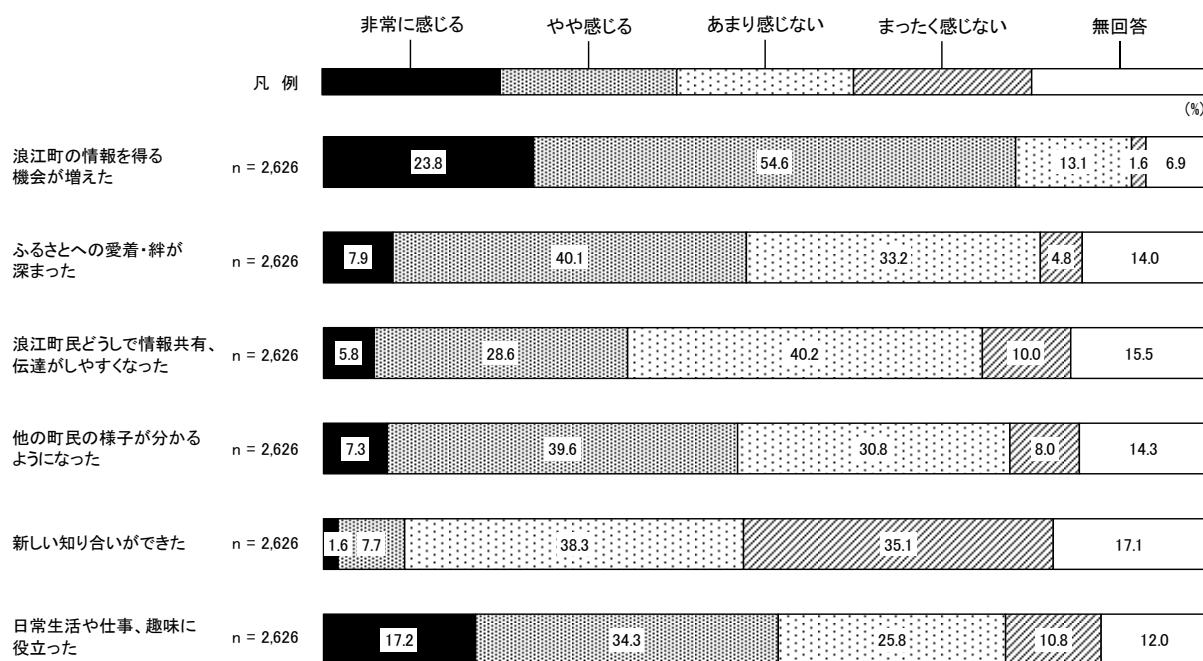
【問 10-5 で「1.持っており利用している」と回答した方のみお答えください。】

問 10-6 タブレットを利用して初めての具体的な効果について、どのように感じていますか。
(それぞれ〇は1つ)

① 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果

浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが 23.8%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが 17.2%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では 1 割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが 78.4%と他の効果に比べ高くなっている。また、「まったく感じない」については、新しい知り合いができたが 35.1%と 3 割以上を占める。

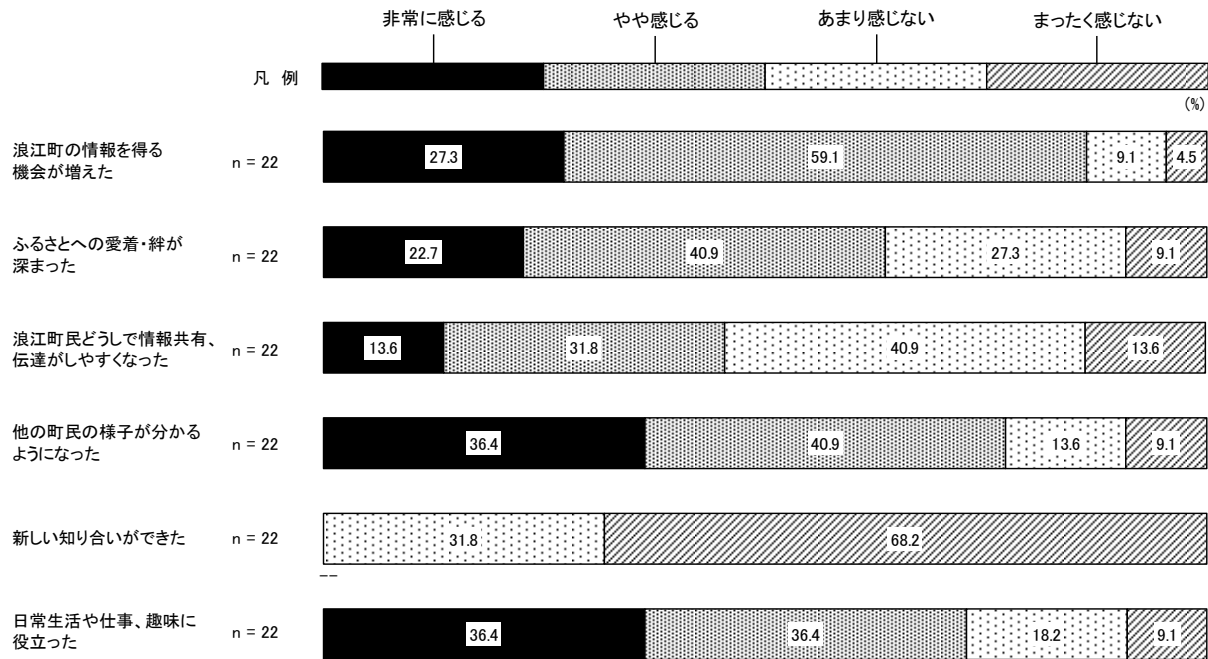
<図表 3-3-6-1 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果>



② 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果：回答者の年齢別

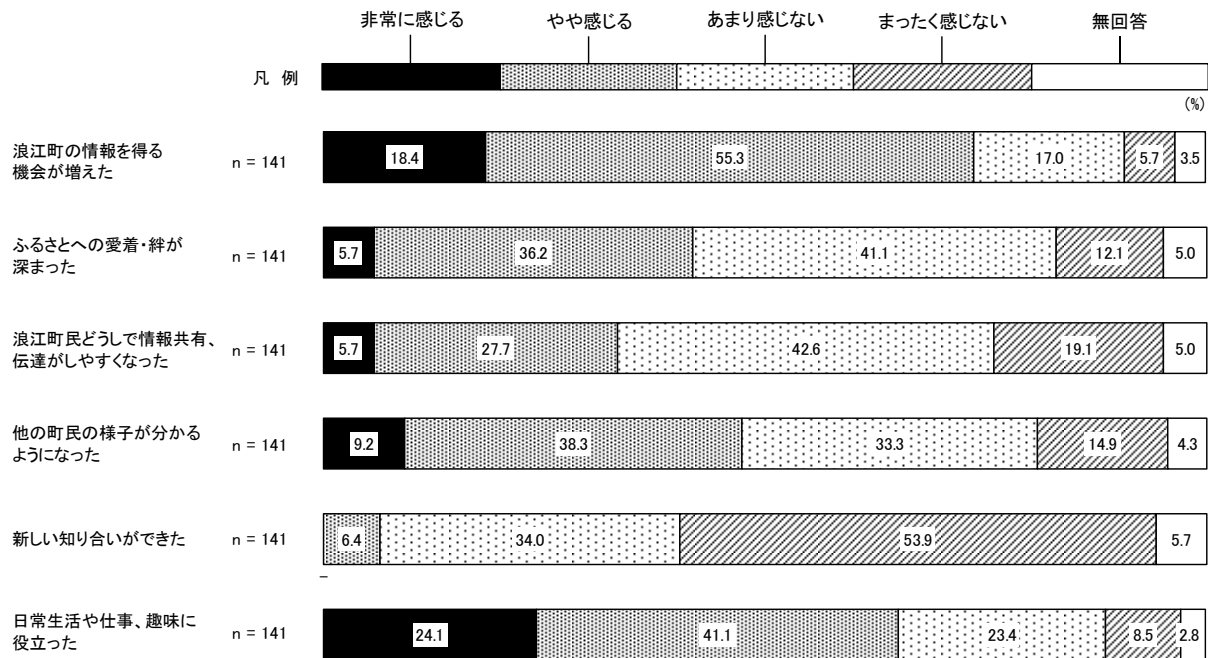
10～20代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は他の町民の様子分かるようになったと日常生活や仕事、趣味に役立ったが36.4%と3割以上となっており、他の年齢に比べ効果を感じる割合が高い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが86.4%、他の町民の様子分かるようになったが77.3%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが72.8%、ふるさとへの愛着・絆が深まったが63.6%と高くなっている。

<図表3-3-6-2 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（10～20代）>



30代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は日常生活や仕事、趣味に役立ったが24.1%、浪江町の情報を得る機会が増えたが18.4%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが73.7%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが65.2%と高くなっている。

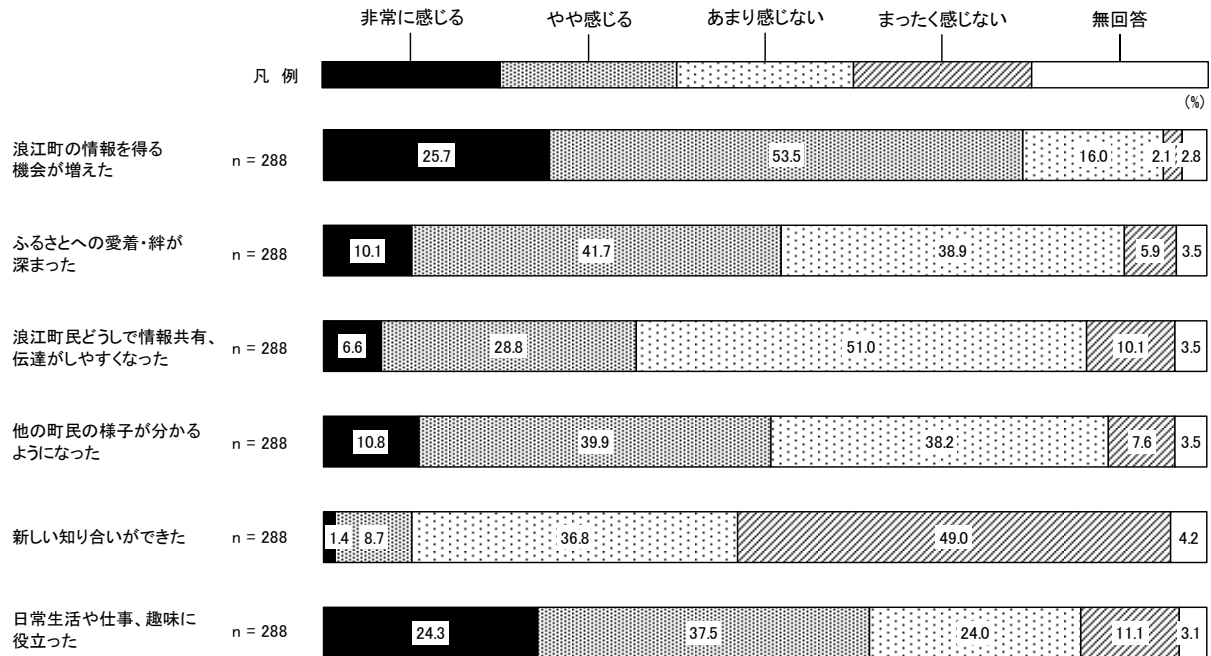
<図表3-3-6-3 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（30代）>



III 調査結果

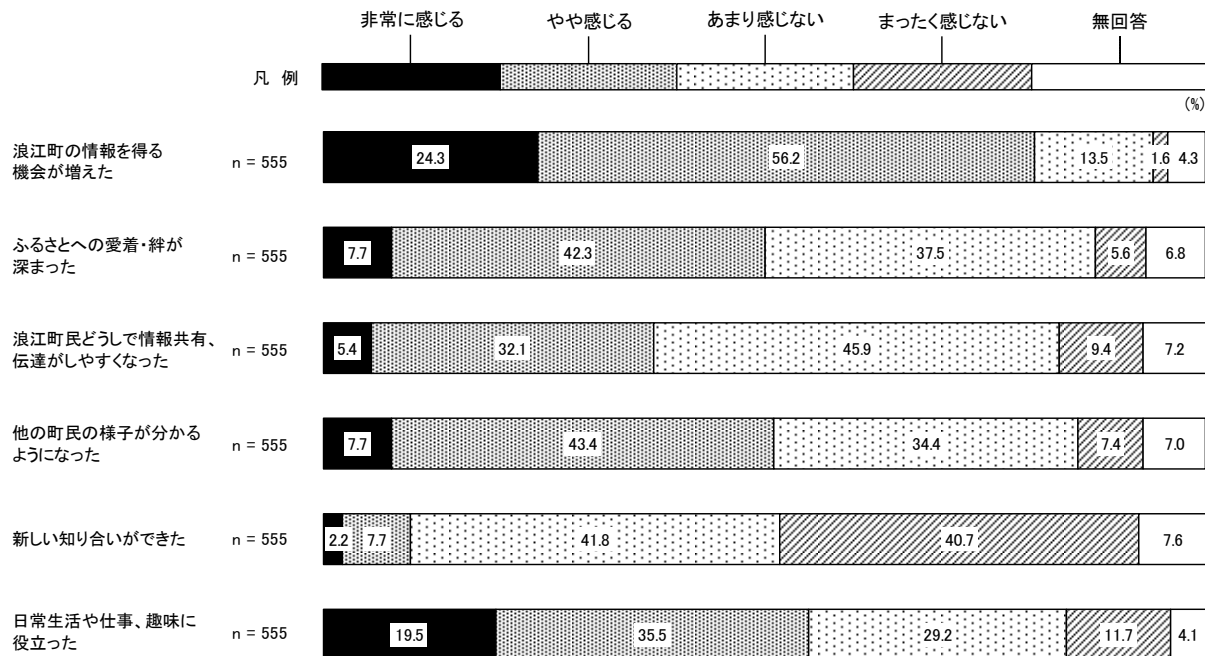
40代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが25.7%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが24.3%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが79.2%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが61.8%と高くなっている。

＜図表3-3-6-4 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（40代）＞



50代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが24.3%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが19.5%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが80.5%と高くなっている。

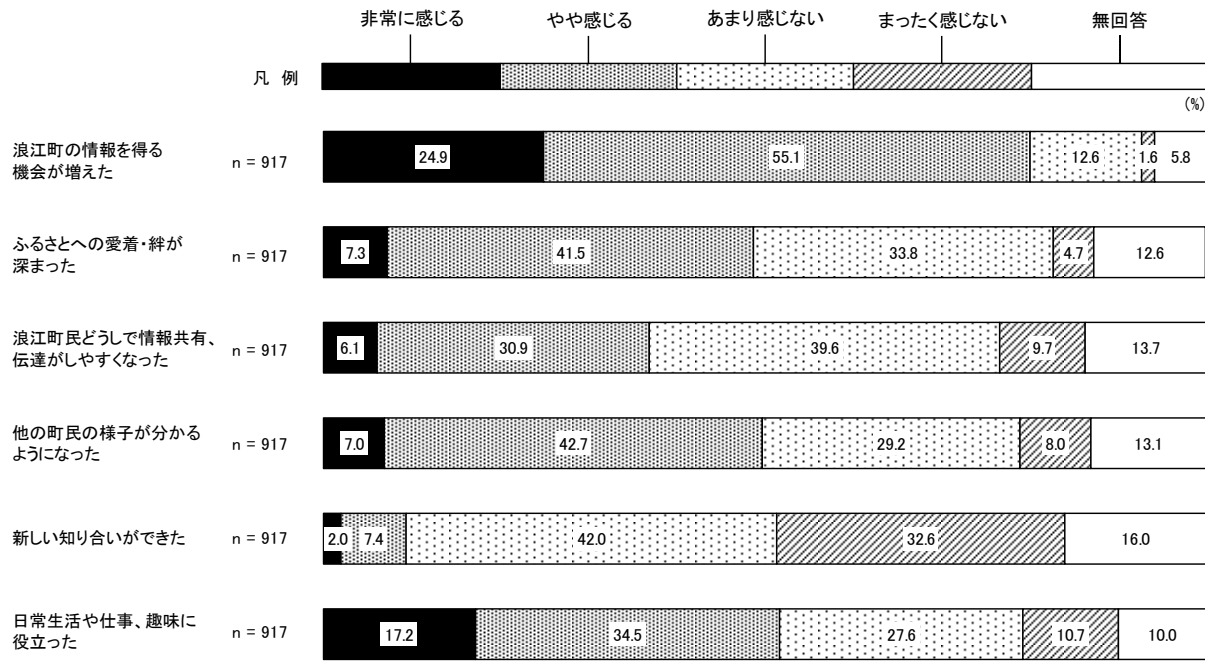
<図表3-3-6-5 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（50代）>



III 調査結果

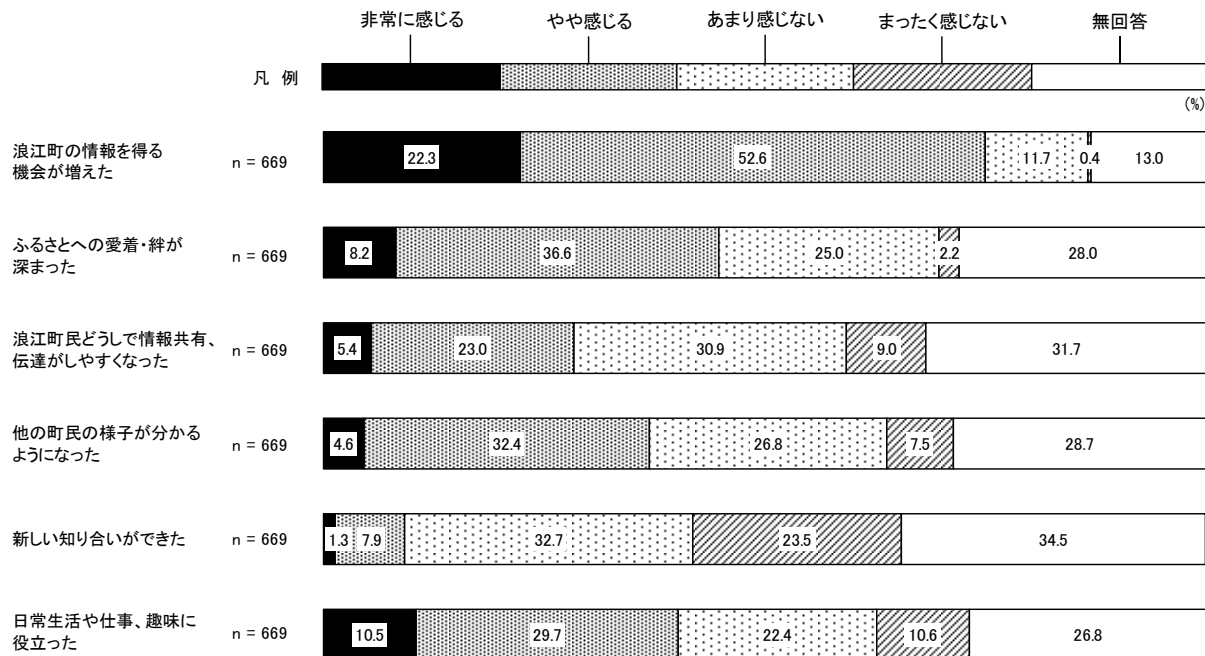
60代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが24.9%、日常生活や仕事、趣味に役立ったが17.2%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが80.0%と高くなっている。

＜図表3-3-6-6 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（60代）＞



70代の回答者の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが22.3%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが74.9%と高くなっている。

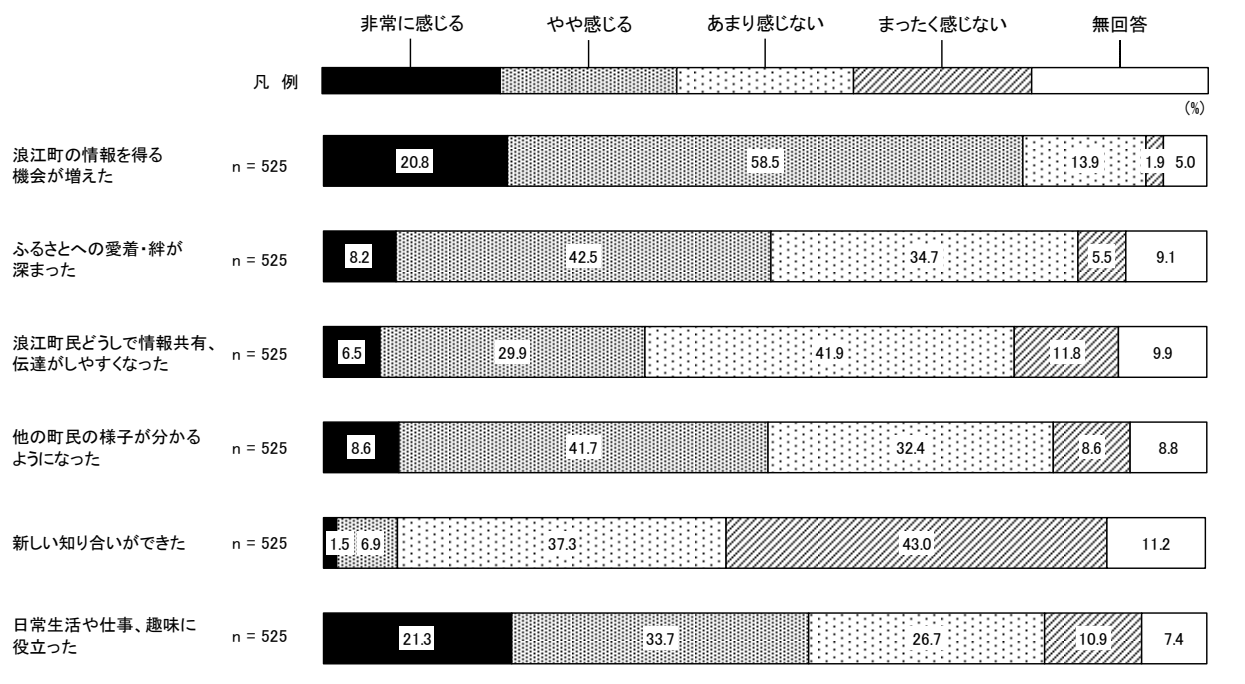
<図表3-3-6-7 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（70代以上）>



③ 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果：世帯構成別

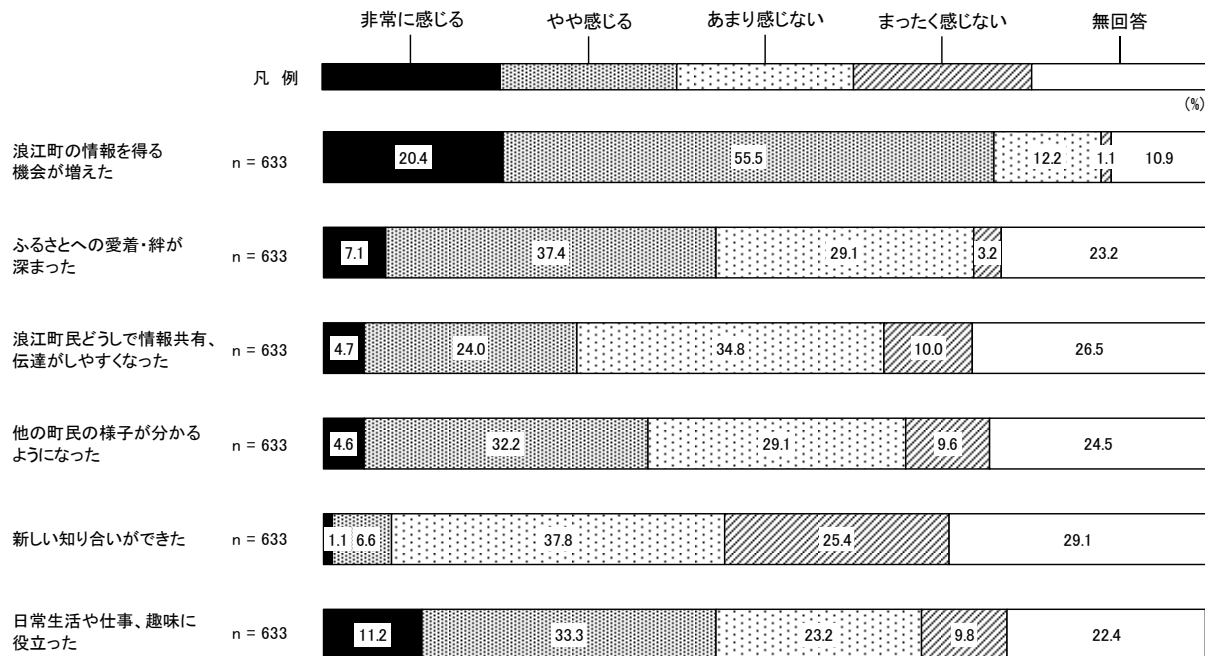
18歳未満のいる世帯の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は日常生活や仕事、趣味に役立ったが21.3%、浪江町の情報を得る機会が増えたが20.8%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割未満と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）は、浪江町の情報を得る機会が増えたが79.3%と高くなっている。

＜図表3-3-6-8 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（18歳未満のいる世帯）＞



65歳以上だけの世帯の浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果については、「非常に感じる」は浪江町の情報を得る機会が増えたが20.4%と他の効果に比べ高くなっているが、それ以外の効果では1割前後と低い。効果を感じる割合（「非常に感じる」、「やや感じる」）についても、浪江町の情報を得る機会が増えたが75.9%と高くなっている。

＜図表3-3-6-9 浪江町が貸与しているタブレットの具体的な効果（65歳以上だけの世帯）＞



3-3-7 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件

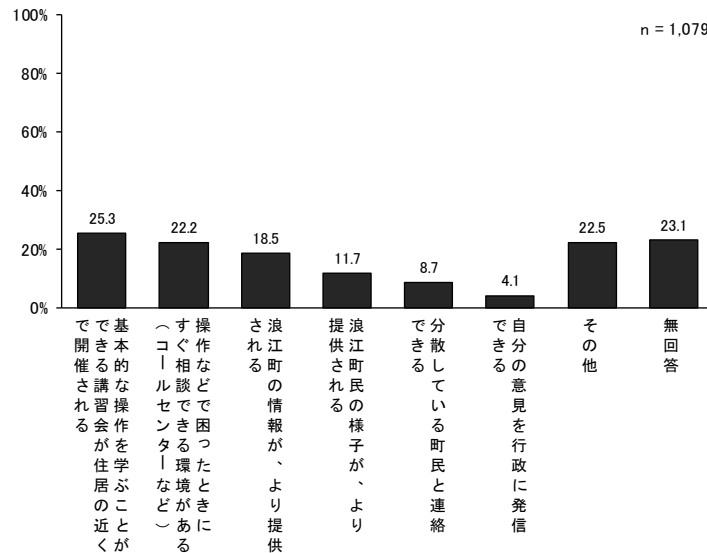
【問 10-5 で「2.持っているが利用していない」と回答した方のみお答えください。】

問 10-7 どのような機会・条件があれば利用しますか。(〇はいくつでも)

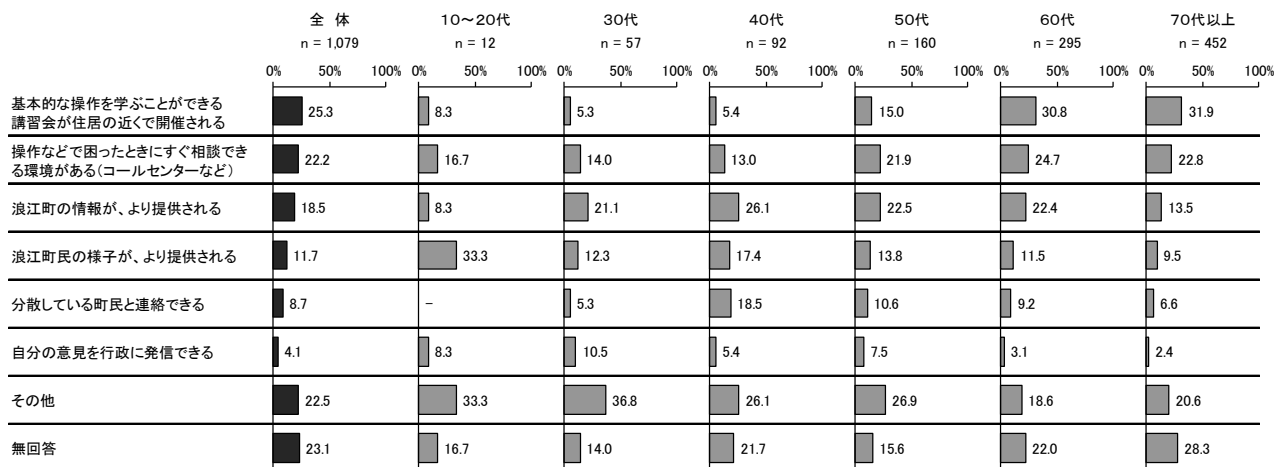
浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件については、「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」が 25.3%と最も高く、次いで「操作などで困ったときにすぐ相談できる環境がある(コールセンターなど)」が 22.2%、「浪江町の情報が、より提供される」が 18.5%となっている。

回答者の年齢別にみると、「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」は 60代で 30.8%、70代以上で 31.9%と、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-7-1 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件>

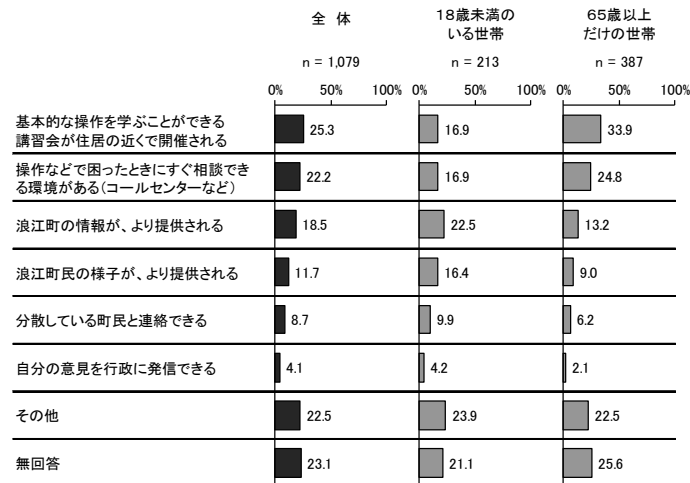


<図表3-3-7-2 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上の世帯では「基本的な操作を学ぶことができる講習会が住居の近くで開催される」が33.9%と全体の割合に比べ高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では「浪江町の情報が、より提供される」(22.5%)、「浪江町民の様子が、より提供される」(16.4%)が全体の割合に比べ高くなっている。

<図表3-3-7-3 浪江町が貸与しているタブレットを利用する機会・条件（世帯構成別）>

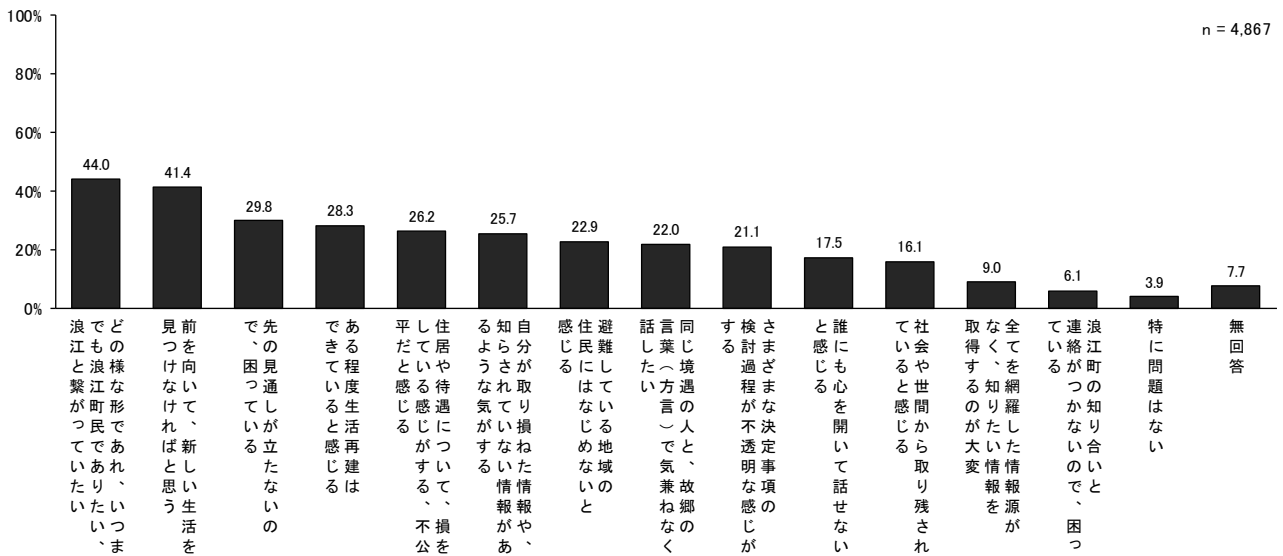


3-3-8 現在の気持ち

問 10-8 現在のあなたのお気持ちに近いと思われることについて教えてください。(〇はいくつでも)

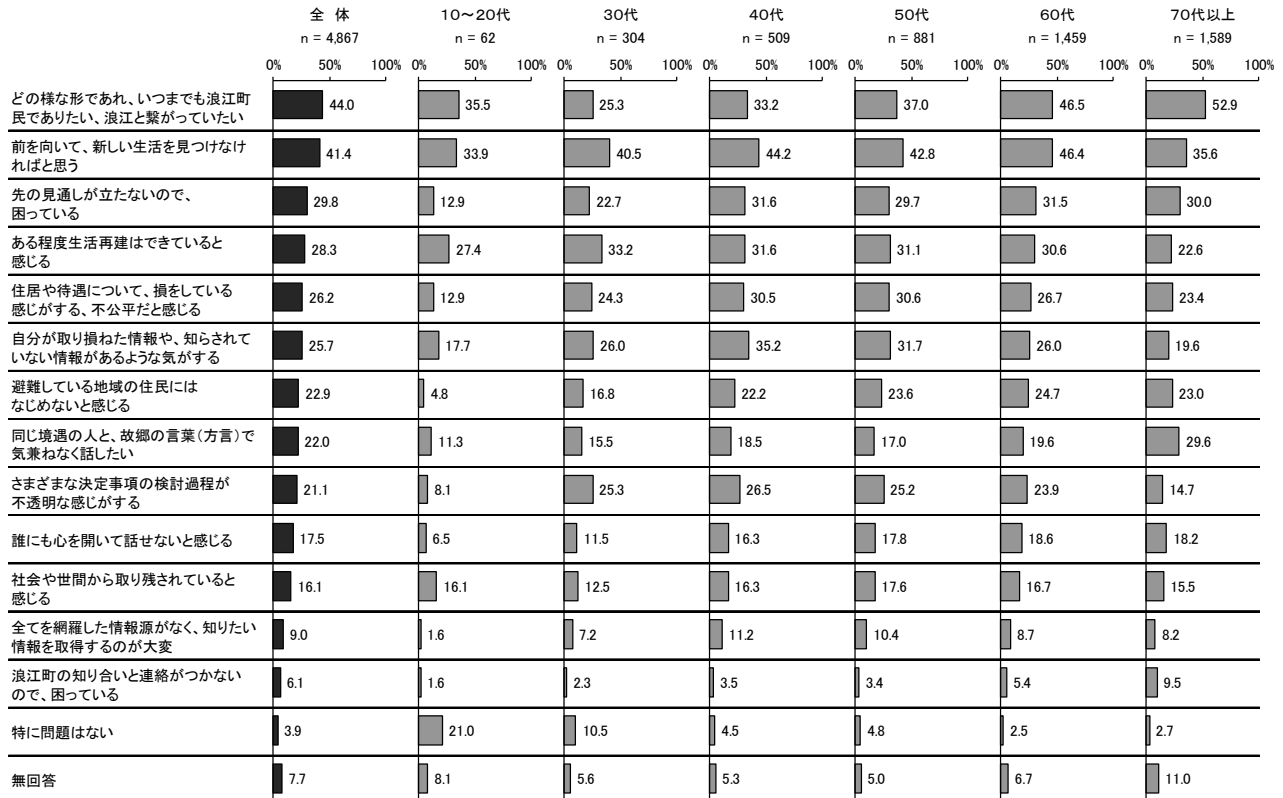
現在の気持ちについては、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がってほしい」が44.0%と最も高く、次いで「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が41.4%、「先の見通しが立たないので、困っている」が29.8%となっている。

<図表3-3-8-1 現在の気持ち>



回答者の年齢別にみると、「どの様な形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がってほしい」は60代(46.5%)、70代以上(52.9%)、「同じ境遇の人と、故郷の言葉(方言)で気兼ねなく話したい」は70代以上(29.6%)が、他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-8-2 現在の気持ち(年齢別)>



世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「どのような形であれ、いつまでも浪江町民でありたい、浪江と繋がってほしい」が51.5%と最も高くなっている。一方、18歳未満のいる世帯では、「前を向いて、新しい生活を見つけなければと思う」が41.9%と最も高くなっている。

<図表3-3-8-3 現在の気持ち（世帯構成別）>

